資料1

継続研修に関する事前調査

目的：平成22年度特定看護師（仮称）養成調査試行事業実施課程（大学院）におけるプライマリ領域修了生の継続研修に関する意向調査

実施時期：平成24年2月

対象：平成22年度特定看護師（仮称）養成調査試行事業実施課程（大学院）におけるプライマリ領域修了生10名

方法：アンケートをメールにて送付・回収

結果：

１．継続研修についての希望　n＝10

1）研修内容について

①決められたプログラムでよい（4名）

②個別にプログラムを組んで欲しい（6名）

③その他の意見

・他施設も選択できるようにして欲しい

・同じ課程を卒業しても、行っていることがかなり違うようなので、個別のプログラムが必要、かつ勤務先で学ぶことができないもの

2）研修を受けたい内容（複数回答）

①自分の領域に関連した新しい治療法やケアに関する知識と技術（9名）

②認知症などトピックスを決め、診断から治療までの系統的な知識、具体的な事例（5名）

③超音波、放射線等の画像評価などに関する知識と技術（6名）

④事例検討・事例研究に対してアドバイスをもらいたい（3名）

⑤その他（5名）

・医行為の中の技術的なものを中心に集中的に学べるコース（気管内挿管など）私の場合は１年間の研修期間を頂いたので、その中で足りなかった内容や、深めたい内容を中心に学びたい。

・認知症に関する治療、看護について

・肺炎（誤嚥性肺炎などの）/心不全についての診察、治療について/皮膚科疾患の診察、治療について/泌尿器科疾患の治療

・トピックスとして循環器などのクリティカルケアと皮膚科などにおける臨床推論

・聴診の技術（異常な呼吸音・血管雑音・心音）

3） 研修の頻度はどれくらいがいいか　n＝10

①１年に１回（6名）

　②１年に２回（3名）

　③２年に１回（1名）

4） 参加可能な研修期間（複数回答）

　①１週間以内（3日間程度）（6名）

　②１週間のみ（2名）

　③２週間（連続または1週間を2回）（3名）

　④１ヶ月間（なし）

　⑤その他（1名）：開催時期による

5）１年の中で、参加可能な時期はいつか

・事前に連絡があれば調整可能（2名）

・夏休み期間　6月から9月（2名）

・10月～2月（1名）

・10月～11月（1名）

・3月・4月以外（1名）

・わからない（2名）

2．研修費用の負担について

1）研修の旅費について

①施設から全面的な補助があるかまたは一部補助がある　（1名）

②施設から補助があるかもしれない（１名）

③すべて自己負担となる（5名）

④現時点ではわからない（3名）

2）研修期間の滞在費について

①施設から全面的な補助があるかまたは一部補助がある（1名）

②施設から補助があるかもしれない（１名）

③すべて自己負担となる（5名）

④現時点ではわからない（3名）

3）研修費について

①施設から全面的な補助があるかまたは一部補助がある　（1名）

②施設から補助があるかもしれない（１名）

③すべて自己負担となる（5名）

④現時点ではわからない（3名）

3．その他の意見等

・卒後の研修は必要であると思う。基礎を大学院で学ぶが、日々の勤務の中で実践を通してつけていく事が重要。忙しい日々の中で、不十分だったり、病院の特性などもあり、深めたい領域知識、足りなかった技術を、集中的に学ぶ時間をもてたら良いと思う。

・研修について、研修期間の病院の給料保障が無ければ、実際は非常に厳しい。研修が必修化され、病院の支援が不十分なものであれば、とても厳しい。研修が3日程度であれば、有給を使用して行くこともできるが、2週間以上、複数回となると、研修参加者に課される負担はとても厳しい面があると思う。

・自分のスキルに不安があるため、開催を楽しみにしている。

・基本的に研修は自己のためではあるが、きちんと制度化されるまでは、補助があると助かる。

・回数も本来多い方が良いが、仕事の休務や開催地によっても異なる。

・開催場所が今後増えてくれば、参加しやすくなると思う。

・研修機関が3日程度と記載したが、研修開催地が遠隔地の場合3日間では困難かと思う。（実際、長期の休暇は現状では難しいと思う）また、1回の期間が3日と短期だが、年に2回行うことで常にニュートラルな考えが保持できるように思う。

・施設で求められている働き方が、異なるのでプログラム内容については個人の希望が反映されることが望ましいと考える。

・研修費用についても全額自己負担であること、勤務先へ研修後や休日に出勤可能となることなどから、なるべく居住地に近い場所での研修先を希望する。